

令和9年度 岡山大学「ウーマン・テニユア・トラック」教員公募要項

●公募概要

国立大学法人岡山大学は、グローバルに展開する学術分野において、世界レベルの研究業績を生み出し、世界的な研究拠点として、知のコミュニケーション・センターの地位を達成することを目指しています。そのための事業の一つとして、質の高い女性教員の雇用促進・育成を目的とした「ウーマン・テニユア・トラック（WTT）」教員制を実施しています。WTT教員制は、WTT教員それぞれにメンター教員を配置し、また、必要に応じて研究支援者を採用するなど、ライフイベントに配慮したサポート体制を整えることで、女性教員が持てる資質・能力を教育・研究に遺憾なく発揮できるよう努めています。

本公募により採用されたWTT教員には、次世代を担う女性研究者として自立的に研究を進めていただき、WTT期間中(5年間)の研究および教育業績に基づいた審査(テニユア審査)を経て、テニユア教員（常勤の教員）として採用されることとなります。

●公募内容

Webサイト:岡山大学ダイバーシティ推進室HP: <https://okayama-u-diversity.jp/wtt/recruitment/>

1. 職 種 : 特別契約職員 助教（特任）
2. 所 属 : 学術研究院環境生命自然科学学域
3. 教育・研究分野: **学術研究院環境生命自然科学学域(工) 先端材料・プロセス工学講座**

先端材料・プロセス工学講座では、より研究機能に特化した戦略的融合クラスターを発展させるために、優れた研究能力を有し、学生の教育・研究指導にも熱意を持って取り組める方を募集する。1) 持続可能高分子材料分野の研究を発展させ、事業化に貢献できる人材、2) 化学・バイオ・医薬分野を基盤とし、データ駆動科学・AIを活用して医工連携などの異分野融合研究を推進できる人材

4. 採用人数 : 2名
5. 応募資格 : 博士の学位取得後10年以内(令和9年3月31日までに学位取得見込みの者を含む)の女性研究者
6. 採用予定日 : 令和9年4月1日
7. 任期(WTT期間) : 5年間 (令和9年4月1日から令和14年3月31日まで)

●待遇

1. 給与等 :

- 1) 給 与 等 : 月額: 32万円
一時金(年2回: 6月期・12月期): 120万円/年 (各期の基準日以前6箇月以内の勤務状況による)
成績加算(12月期のみ): 標準加算額 20万円
- 2) 勤務時間 : 就業時間: 8時30分～17時30分 (※みなし労働時間: 1日7時間45分)
休日: 毎週土・日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年の1月3日
※裁量労働制の適用に関する同意を得た上で、専門業務型裁量労働制を適用する。
- 3) 各種手当 : 該当者には住居手当、通勤手当および在宅勤務手当を支給 (その他支給なし)
- 4) 加入保険 : 健康保険、厚生年金保険、労災保険、雇用保険
- 5) その他 : 乳幼児保育施設、病児・病後児保育施設、学童保育施設等を利用可能

2. 研究環境 :

- 1) WTT教員には、メンター教員およびコーディネーターを置き、研究環境の整備、教育・研究活動の支援等を行います。
- 2) 岡山大学では女性研究者のための様々な支援を行っています。詳細は以下サイトをご確認ください。

https://okayama-u-diversity.jp/wtt/shien_ou/

3) 共同利用研究施設に設置された70種以上の実験機器等を利用することが可能

3. テニユア教員への採用について :

任期5年目に実施するテニユア審査において、テニユア教員への採用基準に達していると評価された場合は、任期満了後に岡山大学テニユア教員に採用する。ただし3年目の中間評価において、すでにテニユア審査基準を満たしていると認められた場合には、テニユア審査を実施し、テニユア教員に採用することがある。また、中間評価以降、実施部局の長から、テニユア審査基準を満たした旨、申し出があった者については、時期を繰り上げてテニユア審査を行うことがある。

●応募方法等

Webサイト:岡山大学ダイバーシティ推進室HP: <https://okayama-u-diversity.jp/wtt/recruitment/>

1. 応募資料

1) WTT教員応募申請書

- (1).現在の専門分野（基盤となる研究分野）
- (2).応募の動機，将来の大学教員(教育者及び研究者)像について
- (3).研究計画
- (4).研究業績
- (5).教育業績および教育に対する抱負
- (6).競争的資金獲得状況，申請状況およびWTT期間中の資金獲得予定
- (7).推薦書(1～2名)

2) 履歴書（岡山大学_様式）

3) 主要論文5編以内

2. 応募方法：電子応募 JREC-IN Portal

Webサイト:<https://okayama-u-diversity.jp/wtt/recruitment/>

- ・複数のデータをZipにまとめて1ファイルにしてください。
- ・1ファイルあたり30MB以内、最大5ファイルまで添付可能です。
- ・応募書類は返却しません。
- ・主要論文を電子データで提出できない場合は、各論文を2部ずつ、下記の宛先まで郵送してください。

<郵送先>

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

岡山大学 総務部ダイバーシティ推進課 宛

※朱書で「岡大WTT教員 応募」と記載

※簡易書留など(応募者が追跡できる方法)にて郵送すること

3. 受付期間：令和8年8月3日から令和8年9月2日【日本時間15時必着】

4. 選考スケジュール：

1) 第一次審査（書類選考）：令和8年9月（予定）

2) 第二次審査（面接、ヒアリング）：令和8年10月（予定）

※提出済の主要論文に加え、必要に応じて関連論文の提出を求める場合があります。

3) 選考結果の通知：令和8年12月（予定）

5. 審査基準:別紙1,2を確認ください。

1) 採用審査基準（別紙1）

2) テニユア審査基準（別紙2）

●お問い合わせ先：岡山大学総務部ダイバーシティ推進課

TEL: 086-251-7303/8987 E-mail: sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

採用審査基準

第一次審査（書類審査）における評価項目

〔Ⅰ〕WTT教員として行う予定の研究提案について

（１）提案の目的と内容説明

他分野の研究者にも十分説得力をもつように記述されているか。

（２）提案の独創性と新規性及び国内外における位置づけ

本提案の独創的な点、新規性が明確に説明されているか。類似研究との違いが明確で、優位性が認められる研究であるか。

（３）本提案の学術的・社会的な重要性

本提案の研究目的が達成されると、学術的にどのような波及効果が期待できるか。

（４）研究計画及び計画の実現性

本提案の実行計画は合理的で実際に実現可能なものであるか。特に、テニユア審査の時点での実現が期待されるか。

〔Ⅱ〕これまでの研究業績について

（１）過去の業績説明

他分野の研究者にも十分説得力をもつように記述されているか。

（２）研究業績リスト

既発表論文の量と質は十分であるか。

〔Ⅲ〕これまでの教育業績、教育に対する抱負について

教育に関する経歴（学部・大学院の別、授業科目名及び単位数、講義・演習・実験・実習の別、講義等の内容、教育上の観点から特に留意した効果的・先進的な実践事項・事例）及び教育に対する抱負等から、大学教員としての資質は十分と判断されるか。

〔Ⅳ〕競争的研究資金について

（１）WTT教員として研究を進めるための研究資金を競争的資金から独自に獲得することが期待できるか。

（２）科学研究費等の研究資金獲得のための申請書作成能力は十分にあると考えられるか。

〔Ⅴ〕推薦書

当該研究者の研究立案能力及び研究推進能力は評価に値するものであるか。大学教員としての将来は期待できるか。

第二次審査(面接、ヒアリング)における評価項目

（１）第一次審査の評価結果及び提出書類に関する質疑応答

（２）面接における質疑応答、研究内容に関するプレゼンテーションと教育に関する業績、抱負及びそれに対する質疑応答

（３）コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力

自分の考え、主張を明確に表現でき、説明できるか。学生の教育にも支障はないか。
研究内容を他分野の研究者、専門外の者にもわかりやすく説明できるか。

岡山大学 WTT 教員制度におけるテニユア審査の審査基準について

下記の内容に基づき、5年目にテニユア審査を実施する（3年目には中間評価を実施）。

記

I. [1]～[6]についてはWTT教員が作成し、[7]～[9]についてはメンター教員が作成して提出すること。

- [1] 実施した研究について
- [2] 研究業績について
- [3] 教育業績について
- [4] 競争的研究資金への応募実績、資金の受け入れ状況について
- [5] 期間中における特記事項（受賞、表彰等）
- [6] 総合評価（自己評価）について
- [7] WTT教員期間中の簡単なメンタリングの経過報告書及び研究、教育、研究資金などに関する評価
- [8] WTT教員に関する特記事項など
- [9] その他、大学教員、一般社会人としての行動規範遵守など

II. テニユア審査は、以下を基準として、総合的に勘案して行うものとする。

- [1] 研究計画の達成状況が充分であること。
- [2] 研究成果の発表については、以下を満たすことが望ましい。
 - *WTT教員期間中の研究内容を中心とする、独創性に富み、学術的評価の高い論文を第一著者又は責任者として2編以上公表されていること。
 - *共著を含む平均年1編の論文が公表されていること。
 - *国際会議・シンポジウムなどにおける発表が平均年1回以上あること。
- [3] 研究費について
 - *積極的に外部資金（科学研究費など及び財団などの研究費）に応募し、WTT教員期間中に少なくとも1回は研究代表者として外部資金獲得があることが望ましい。

以上